



Institute of Labor Education & Culture

通信 No.43

2016年 1月15日

編集・発行：公益社団法人教育文化協会

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館内

tel 03-5295-5421 fax 03-5295-5422

URL <http://www.rengo-ilec.or.jp>

発行責任者：木村裕士専務理事

新年のご挨拶



理事長 南雲 弘行

明けましておめでとうございます。

旧年中、皆様方には（公社）教育文化協会に対するご支援・ご協力を賜り、心より感謝を申し上げます。また本年が皆様方にとって、さらに良き年となりますよう祈念いたします。

昨年9月27日に閉会し、戦後最長となる95日間の延長を含む、245日間の会期となった第189通常国会では、「安全保障関連法案」や「労働者派遣法改正法案」が成立しました。いずれの法案も国会での審議が不十分であり、国民の疑問や懸念にも十分に答えられていない中で強引に可決となったことは、日本の今後の民主主義や政治のあり方に加え、国民の暮らしや雇用はどうなっていくのか不安にさせるものでした。

こうした中で、私たちの将来を明るくしていくために、全ての働く者が連帯して立ち上がる時だと考えます。そのためにも多くの働く人たちが労働者の権利やワークルールについて学び、「労働文化」を育んでいく必要があります。そして、それを通じて、働くことの尊厳や連帯の意味を当然のこととして理解し共有する中で、連合が掲げる「働くことを軸とする安心社会」の実現をめざしていくべきだと考えます。

本年も、（公社）教育文化協会は、引き続き「労働文化」づくりに努めていく所存です。具体的には、同志社大・一橋大・埼玉大・法政大において、若者への労働教育を目的に開講している連合寄付講座をさらに充実させていきます。また、地方におきましても、多くの若者に学んでいただけるよう、これまで開講している11大学（山形大・佐賀大・福井県立大・三重大・滋賀大・長崎大・沖縄大・大分大・岩手大・山口大・首都大学東京）における地方連合会寄付講座に対する支援のさらなる充実をはかります。加えて、現在着実に広がっている地方連合会寄付講座を全国的に展開していけるよう、講座の開設を検討・希望している地方連合会からの要請にしっかりと応えていきます。

また、2001年に開講したR e n g o アカデミー・マスターコースにつきましては、第14回までに345名が受講しており、プログラムの一層の充実等を通じ、連合運動の次代を担うリーダーの育成をはかります。

文化事業として幸せさがし文化展や私の提言などをしっかりと展開していくために、連合やその構成組織をはじめとした関係各方面とより密に連携していきます。

あわせて、公益社団法人として会員のみならず公益目的事業を展開していることから、より多くの皆様にご参加いただけるよう、広報のあり方等の工夫を通じ、発信力を高めていきたいと考えています。

（公社）教育文化協会は、「働くことを軸とする安心社会」の実現を念頭に、社会の共感を呼び、そして共に学びあえる事業をしっかりと推進してまいりますので、皆様の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

Rengoアカデミー第15回マスターコース開講

2015年11月15日（日）にRengoアカデミー第15回マスターコース（校長：神津里季生連合会長）が開講し、5泊6日の前期合宿をMELONDIAあざみ野で行いました。今回の受講生は総勢21名（男性15名、女性6名）です。

初日の開講式では、主催者を代表して南雲弘行理事長より、「労働運動に関する知識を体系的に勉強する絶好の機会だと思う。同期の仲間とともに、積極的に学び・交流を深めてほしい」との挨拶がありました。

つづいて、高木郁朗Rengoアカデミー副校長、および中村圭介教務委員長（法政大学院連帯社会インスティテュート教授）から、受講生に対し、激励のメッセージをいただきました。また、受講生を代表して自動車総連の熊野明子さんから今後約1年にわたるマスターコースに向けて決意表明が行われました。



▲第15回マスターコース受講生のみなさん



▲主催者挨拶する南雲理事長



▲アカデミーでの目標を話す高木副校長



▲激励のメッセージを送る中村教務委員長



▲決意表明を行う自動車総連熊野さん

前期合宿では、受講生は経済や労働法、社会保障、ジェンダーなど幅広い領域・分野の講義を受けるとともに、グループワーク等を通じて自分たちの産業や組織、置かれている立場等から活発な意見交換を行いました。

講義後は、各ゼミに分かれ、各自の問題意識について考察を深めるため夜遅くまで熱心に議論を交わしました。今期は、昨年につづき高木副校長、毛塚勝利法政大学院連帯社会インスティテュート客員教授、橋元秀一國學院大學教授、禹宗杭埼玉大学教授、木本喜美子一橋大学名誉教授にゼミナールを担当していただいています。

今後、受講生は自学自習に励みつつ、必修ゼミと後期合宿（2016年5月15日～20日）において、さらに考察を深め、修了論文の提出、教務委員長の監修を経て9月に修了式を迎える予定です。

各組織におかれましては、引き続き受講生への温かいご協力・ご支援をお願いいたします。



▲講義での熱心な質疑応答の様子

Rengoアカデミー第15回マスターコース・前期講義一覧

講義日	科目	講師氏名
11.15(日)	「連合の役割・行動Ⅰ—連合運動における自らの役割」	逢見 直人 連合事務局長 中村 圭介 Rengoアカデミー教務委員長
11.16(月)	「アサーティブ・トレーニング」	牛島のり子 アサーティブ・ジャパン事務局長
	「現代社会保障のとらえ方」	菅沼 隆 立教大学教授
11.17(火)	「現代日本経済論」	宮崎 徹 早稲田大学講師
	「歴史からみた労働組合の役割」	高木 郁朗 Rengoアカデミー副校長
11.18(水)	「論文のまとめ方」	高木 郁朗 Rengoアカデミー副校長
	「ジェンダーと労働」	神尾真知子 日本大学教授
11.19(木)	「労働法の基礎」	浜村 彰 法政大学教授
	「グローバル化と労働関係」	田端 博邦 東京大学名誉教授
11.20(金)	「労働者自主福祉の課題」	大塚 敏夫 中央労協事務局長 大島ひろみ 労金協会経営企画部次長 飯倉 裕之 全労済経営企画部次長 高木 郁朗 Rengoアカデミー副校長
	「人材活用と人事管理の課題」	橋元 秀一 國學院大學教授
	「組合リーダーに聞く」	板木 孝三 電源開発関連労働組合総連合会長
		中川 育江 連合宮崎事務局長 高木 郁朗 Rengoアカデミー副校長

【ゼミとそのテーマ】

ゼミ名	テーマ
高木ゼミ	経済・産業と労働組合
毛塚ゼミ	労働法と労働組合
橋元ゼミ	企業・職場と労働組合
禹ゼミ	グローバル化と日本の労働組合
木本ゼミ	少子高齢社会のなかの人間と労働組合

【受講生からの声】

- ・日頃、意識をしていなかったことについて、再認識することができた。
 - ・自分の職場の身近な問題として興味深く聞くことができた。
 - ・今まで不明確だった点に分かり、明確にすることができた。
 - ・もっと詳しく話を聞きたいぐらいだった。
- ※多くの講義で同様の感想をもらっています。

第10回「労働法講座」(基礎コース)を開催

2015年10月26日(月)～27日(火)、連合会館において第10回「労働法講座」(基礎コース)を開催し、連合構成組織・地方連合会などから50名が参加しました。

講座には2名の労働法学者をお招きし、初日は野川忍明治大学法科大学院教授から労働法の必要性・役割と全体像、労働基準法、労働契約法などを、2日目は森戸英幸慶應義塾大学法科大学院教授から労働組合法、男女雇用機会均等法、パートタイム労働法などを講義いただきました。

続いて連合本部から、安永貴夫連合副事務局長が労働者保護ルール改悪阻止に向けた連合の雇用・労働法制への取り組みについて紹介しました。その後、駒井卓連合中央アドバイザーが労働相談の現場でどのように労働法を活用するかについて、事例を交えながら講義を行いました。

今年の秋にも労働法講座(基礎コース)を開講予定ですので、皆さんの参加をお待ちしています。



▲南雲理事長より開会挨拶



▲野川教授



▲森戸教授



▲安永連合副事務局長



▲駒井連合中央アドバイザー

受講者アンケートより

- ◇労働法の基本的な考え方が理解できた。
- ◇労働組合の存在意義と責任を再認識できた。
- ◇今後の活動で疑問が生じた際、法律に立ち返る視点を持ちたい。
- ◇労働組合法の重要性を理解できた。
- ◇連合の取り組みについて理解できた。
- ◇現状の課題を今一度整理できた。
- ◇実態に基づいた話が大変分かりやすく勉強になった。
- ◇当社でも労働相談の事例のような問題が起きていないか確認する必要があると感じた。

「ワークルール検定2015・秋(初級)」を実施

ワークルールに関する知識を身に付けたいという社会的なニーズの高まりを受け、労働法に関わる一般的な知識の理解度について検定を行う「ワークルール検定」が、(一社)日本ワークルール検定協会の主催(厚生労働省が後援)で実施されています。

教育文化協会は、連合や中央労福協などとともに、本検定の運営に参画しながら、その展開・拡大に取り組んでいます。

2015年は、6月に続き11月23日(勤労感謝の日)に初級検定を全国12カ所で開催し、773名が受験して内375名が合格しました(実施地は表の通り)。

次回の検定は、2016年5月22日(日)に初級と中級を実施する予定です。詳しくは下記ホームページをご覧ください(3月上旬掲載予定)。

(URL) <http://workrule-kentei.jp/>



実施地	会場
札幌	札幌市民ホール 第1・2会議室
苫小牧	苫小牧市労働福祉センターホール
函館	函館市民会館 展示室
秋田	フォーラムアキタ・3階 ふよう
東京	連合会館・2階 大会議室
長野	信州大学経済学部 第2講義室
富山	サンシップとやま
兵庫	兵庫県私学会館・4階 大ホール
島根	松江テルサ 大会議室
徳島	ろうきんホール
鹿児島	鹿児島県労働者福祉会館・7階 ホール
和歌山	和歌山県勤労福祉会館 (プラザホープ)

第9回 連合・ILEC 幸せさがし文化展 -働く仲間とその家族の公募展- ～入賞作品の展覧会を開催～

「連合・ILEC幸せさがし文化展」は、働く仲間とその家族の文化活動の支援を目的に、絵画・写真・書道・俳句・川柳の5部門の公募展として開催しています。

すでにご承知の通り、第9回文化展では、絵画の部に164点、写真の部に469点、書道の部に189点、俳句の部に843点、川柳の部に2031点、総数で3696点の応募をいただきました。厳正な審査の末、各部門の入賞者を決定し、10月7日の連合第14回定期大会で表彰式を行いました。また、入賞作品の展覧会を下記の日程で開催し、延べ614名の方にご来場をいただきました。

第10回は、2017年に実施の予定です。次回も皆様からのたくさんの応募をお待ちしております。(全入賞作品は、ILECホームページでご覧いただけます。)

日 程	2015年10月6日(火)～7日(水) (第14回連合定期大会)
場 所	東京国際フォーラム・ホールA 1階ロビー
日 程	2015年10月12日(月)～18日(日)
場 所	NHKふれあいホールギャラリー



▲NHKふれあいホール会場風景

◀特別展示コーナーでは、ネパールの子どもたちからの絵画30点を紹介

『日本労働運動史事典』を刊行

2015年9月に明石書店より『日本労働運動史事典』を刊行しました。

本書は、日本の労働運動の歴史について、関連の深い国際労働運動も含めて、体系的に概観することを目的に、18世紀後半から2014年までの事項を約1000項目収録しています。

個々の事項について、年表・事項・人名・組織の索引をつけることで、相互の関連や背景事情についてより理解を深めることができるよう配慮しました。また、各項目について、出来るだけ読みやすい記述を心がけたことで、「読んでも楽しい事典」になったと自負しています。

お求めの際は全国の書店、もしくは出版元の明石書店までお問い合わせください。



『日本労働運動史事典』

高木郁朗監修、教育文化協会編
B5・432ページ、本体15,000円+税

理事・監事の交代等

(敬称略)

<理事> (旧)		(新)	
神津里季生	連合会長	→ 逢見 直人	連合事務局長 (2015年11月2日付)
青木真理子	自治労書記次長	→ 田中 浩二	自治労総合企画総務局長 (同上)
藤川 慎一	JAM副会長	→ 川野 英樹	JAM副書記長 (同上)
團野 久茂	国際労働財団前専務理事	→ 塩田 正行	国際労働財団事務局長 (2016年1月13日付)
<監事>			
塩田 正行	連合前総合総務財政局長	→ 寺田 弘	連合総合総務財政局長 (2015年11月2日付)

あわせて、11月12日付をもって、副理事長に逢見直人連合事務局長が就任しました。

編集後記

今年の干支は申(さる)。申は去るにつながるの、「病がさる」「やなことがさる」など縁起をかつぐ人も多いようです。早速、縁起物を調べてみましたが、「えっ」と思うものでちょっと買えませんでした。(アラ50)